

タウンミーティング・パブリックコメントでいただいた主な意見と対応状況(活力分野)

【タウンミーティングでいただいた主な意見】

該当政策	会場	意見内容	対応状況
1 活力4 活力8	県西部 (砺波)	地域の活性化のため、商工会青年部など地域の商工業の振興等に取り組む若手商工業者への支援などに取り組んでほしい。	活力4の【取組みの基本方向】において、新たに起業を志す方に対する各ステージ(起業前、準備期、スタートアップ期、成長期)に応じた総合的支援を記載するとともに、【主な施策】において、とやま起業未来塾による起業家育成や新商品・サービス等に対する支援や、新たに若者のアイデアを活かした事業への助成等について記載している。 また、活力8の【取組みの基本方向】において、①新規開業者の商店街への誘致、②若者の商店街の魅力創出への参加等について記載するとともに、【主な施策】の2において、若者等と連携したまちなかエリア全体の活性化等について記載している。
2 活力5	県西部 (高岡)	若者が増えるまちづくりのために、大企業の誘致に取り組んでほしい。	活力5の【取組みの基本方向】や【主な施策】において、「地方拠点強化税制」を活用した、東京圏からの人の還流、若者や女性の雇用につながる本社機能・研究開発拠点の誘致や、東京等で開催する企業立地セミナーにおいて、企業を対象にしたトップセールスの実施について記載している。
3 活力5 未来24	県西部 (砺波)	地方では、民間企業が少なく、行政の役割が大きくなってしまいうので、民間企業の進出により婚活支援や移住対策を積極的に進めるべきでないか。	活力5の【取組みの基本方向】や【主な施策】において、「地方拠点強化税制」を活用した、東京圏からの人の還流、若者や女性の雇用につながる本社機能・研究開発拠点の誘致について記載している。 また、未来24の【主な施策】の3において、本県の恵まれた就労環境のPRや暮らしと仕事の一元的な相談体制の充実に向け、 ・首都圏での大規模な移住・転職フェアの開催や転職イベントへの出展による県内企業等と連携した本県の就労環境の魅力発信や県内企業等のPR ・NPOなど県内団体が実施する富山暮らし体験会への支援や移住相談員の派遣による相談機会の創出などに取り組む旨記載している。
4 活力4 活力6	県西部 (砺波)	中小企業の事業継承が課題となっていることから、国の施策に沿いながらの相続、富山県らしいM&Aに取り組みやすい環境づくりが大切だと考えるが、何か対策を講じられないか。	活力4、6において、中小企業の事業承継支援や後継者対策について記載しており、今後とも経済団体・金融機関等と連携を図りながら、県内中小企業の経営資源や技術力を次世代へ確実に引き継ぐことができるよう支援を強化してまいりたい。
5 活力7	県西部 (高岡)	菅笠を含めた高岡地域における伝統工芸品産業の振興に取り組んでもらいたい。	活力7の【主な施策】の「4 伝統工芸品産業における希少な技法の継承及びデザイン等の体系的な習得」において、「高度な技術又は希少な技法を有する「伝統工芸の匠」による技術の継承に対する支援」、「伝統工芸における若い後継者への技法、デザイン、マーケティング等の体系的な習得の支援」について記載している。
6 活力10	県西部 (砺波)	中小企業の人材確保への支援や、IT分野や建設分野など専門職の確保やUターン就職の促進、高齢者の活躍促進を進め、ものづくり県として働きやすい、生きがいのある職場づくりに努めていくことが必要でないか。	活力10の【取組みの基本方向】において、UIターン等の推進等による人材還流、AIやIoTの技術革新に伴う新しい働き方の導入による雇用創出、全員参加型の一億総活躍社会を実現するため、ダイバーシティのある雇用確保の促進や県内企業の間における人材交流の促進について記載している。
7 活力13	富山	来年秋にデビューする富山米新品種「富富富」のブランド化を進め、全国の消費者に知ってもらい、食べてもらうためには、女性は見た目も重視するので、是非ネーミングに負けないインパクトのあるパッケージにすべきでないか。	活力13の【主な施策】の「1 富山米新品種を中心とした「食のとやまブランド」の確立と認知度向上」において、「富富富」の生産・販売戦略の構築について記載しており、その中で、パッケージのデザインについても検討してまいりたい。
8 活力22 活力23	新川	外国人はインターネットを使う人が多く、外国人観光客の誘致にはフリーWi-Fi環境の整備が重要であることから、県内の全宿泊施設でWi-Fi整備が促進されるよう目標値を定めて、整備を進めてはどうか。	ご提案の趣旨については、宿泊事業者の自主的な取り組みと考えている。未整備の宿泊事業者に対しては、Wi-Fi整備等に対する国の補助制度の積極的な活用を働きかけてまいりたい。
9 活力23	県西部 (高岡)	県西部エリアは、歴史的建造物や伝統工芸、豊かな海や山の幸などの食、特徴ある祭りやイベントなどが豊富にあり、「城端曳山祭」や「高岡御車山祭」がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、地域活性化の大きなチャンスである。また、隣接する県にも観光地が多く存在していることから、より多くの観光客を富山県に呼び込むために、これらを一体的に捉えて広域観光を促進すればよいのではないか。	活力23の【主な施策】の「4 戦略的なプロモーション」において、「交通事業者、大手旅行会社、近隣自治体等と連携したプロモーションの実施」を記載している。今後とも、観光資源の磨き上げを行い、近隣自治体等と連携して観光誘客に取り組んでまいりたい。

タウンミーティング・パブリックコメントでいただいた主な意見と対応状況(活力分野)

【タウンミーティングでいただいた主な意見】

	該当政策	会場	意見内容	対応状況
10	活力23	県西部(高岡)	観光客が利用しやすい交通網・アクセスの見直しが必要でないか。	活力23の【主な施策】の「2 広域観光の拠点化」において、「主要駅・空港と観光地を結ぶ二次交通の整備・利便性の向上」を記載している。今後とも関係市町村や事業者等と連携しながら、来県者の利便性向上について取り組んでまいりたい。
11	活力23	県西部(高岡)	宿泊施設が少ないので、増やせないか。	活力23の【主な施策】の「1 戦略的な観光地域づくり」において、「グレードの高い宿泊施設の誘致・整備の促進」を記載している。今後とも、魅力的な宿泊施設の整備や誘致を関係者に働きかけてまいりたい。
12	活力23	県西部(高岡)	富山駅、新高岡駅からの県境周辺にある多くの観光資源へのアクセスの利便性の向上に向けて取り組んでほしい。	活力23の【主な施策】の「2 広域観光の拠点化」において、「主要駅・空港と観光地を結ぶ二次交通の整備・利便性の向上」を記載している。今後とも、関係市町村や事業者等と連携しながら、来県者の利便性向上について取り組んでまいりたい。
13	活力23	県西部(砺波)	鉄道に自転車を容易に持ち込めるようにし、サイクリングを楽しむ人々の行動範囲を拡大するとともに、鉄道利用者の増加や各地でお金を落とす仕掛けづくりに寄与できないか。	鉄道に自転車を持ち込む際には、一般の利用者とのすみ分けや車内での自転車の固定といった安全性への配慮、跨線橋設置駅における自転車の構内移動や車両への積込みといった駅舎・体制整備など、解決すべき課題が多くあり、県内鉄道の利用状況を考慮すると、定期列車での利用は難しいものと考えられるが、臨時の貸切列車としての運行などについて検討できないか、各運行事業者に働きかけてまいりたい。
14	活力23	県西部(砺波)	観光スポットは人がいることで楽しいと感じてもらえることができるので、観光案内所や観光地案内マップを、例えば「兼デートスポット案内所」とするなど、県民向けの内容となるよう見直し、県民も来てもらえるようにし、観光地の満足度を上げることができないか。	活力23の【主な施策】の「2 広域観光の拠点化」において、「観光案内所の機能充実」を、「4 戦略的なプロモーション」において、「的確なマーケティングに基づく、ターゲットの特性に応じた媒体選定による効果的な情報発信」を記載している。県外はもとより県内観光客にも満足してもらえるよう、情報発信に取り組んでまいりたい。
15	活力25	県西部(砺波)	サイクリング環境の整備に向けて、本県の箱庭的な形状を活かしたサイクリングコースを全県的に整備することはできないか。	活力25の【主な施策】の「2 富山湾の魅力のブラッシュアップ」において、自転車専用道の整備について記載しているところであり、これまで整備した湾岸サイクリングコース等の利用状況や利用者の意見を聞きながら、本県のサイクリング環境の一層の充実を図ってまいりたい。
16	活力26	新川	県内でも最大規模の温泉地である宇奈月温泉を含め、立山黒部のポテンシャルは非常に高く、もっと多くの人たちに来ていただけるはずである。「立山黒部」の世界ブランド化に向けた取組みを進めていくべき。	活力26の【取組みの基本方向】及び、【主な施策】の「1『立山黒部』の世界ブランド化に向けたプロジェクトの推進」において記載している。今後、「立山黒部」の世界ブランド化に向けて、プロジェクトの着実な推進に取り組んでまいりたい。

タウンミーティング・パブリックコメントでいただいた主な意見と対応状況(活力分野)

【パブリックコメントでいただいた主な意見】

番号	該当政策	意見内容	対応状況
1	活力1	「新たな産業分野について」 将来の産業分野として「宇宙」の追加を検討してはどうでしょうか。宇宙については、宇宙活動法が成立するなど、今後は民需の増加が期待されます。航空産業との親和性もありますし、夢もあります。	現在、県では県内企業グループによる航空機産業での共同受注の促進に向けた支援を行っており、「宇宙」分野については、今後、県内企業の意向や取組み状況等も踏まえながら、検討してまいります。
2	活力2	「産業クラスターのイメージアップについて」 産業クラスターの形成充実、グローバル経済時代に地域が生き残っていく大切な手段です。富山県内に既に存在する医薬品製造業及び関連した様々な業種さらには研究所等の産業クラスターを確認し、医薬品関連事業活動を展開するには優れた環境だとイメージアップしてください。同時に、県内に既にある関連事業所等も産業クラスターを意識し、さらに相互連携を深めるように共通認識の形成を促してください。	医薬品に関する高い技術力や産業集積は、本県の強みであると認識しているところであり、この計画においても、付加価値の高い製品の開発や人材育成、国際展開の推進とともに、医療機関や製薬企業、医薬品関連企業などによる医薬工連携の取組みを推進することとしております。
3	活力2	「ジェネリック医薬品産業の発展について」 富山県にはジェネリック医薬品製造業が多いことから、国から医薬品製造・開発特区を受けるとも考えたほうがよいのではないかと。	本県の医薬品生産金額は、ジェネリック医薬品の使用促進等を背景に平成27年に全国第1位となったところですが、今後、ジェネリック医薬品市場の伸びの低下が見込まれていることなどから、ジェネリック医薬品の製造・開発に加え、バイオ医薬品や高薬理活性医薬品等の付加価値の高い医薬品の開発を推進することとしております。
4	活力7	「木象嵌技術の普及について」 県民に木象嵌技術を伝承できる機会を設けるため、「伝統工芸会館(仮称)」を作り、この会館で教室を開催したり、作品を販売してはどうか。	県では、富山木象嵌をはじめとした県指定の伝統工芸品について、新商品の開発や県内外の販路開拓に対して支援するとともに、「伝統工芸の匠」による希少な技術の継承についても支援を行っております。また、高岡地域地場産業センターにおいて、国指定の5つの伝統的工芸品や、県指定の伝統工芸品の一部(現在は、高岡仏壇と越中福岡の菅笠)について、販売や体験教室が行われており、県としても支援をしているところです。
5	活力10	「地域で生まれ育った企業群による雇用環境の維持について」 金融資本主義が横行する経済社会の中で、富山県には地域で生まれ育った企業が多く、その経営者の顔もよく見えます。この結果、そこに働く人を大切にしており、結果として、非正規雇用比率は低く、女性の年齢別労働力率のM字カーブの窪みも浅いものとなっています。今後は、ITによる影響等で働く人の立場が極めて厳しくなる可能性があります。地域企業の経営者が優れた雇用環境を維持していくよう注意を喚起してください。	AIの進化やIoT革命が進む中で、今後、雇用システムもより柔軟な方向に整備していく必要があると考えています。こういった動きに対応するため、新しい働き方に即したスキルアップのための訓練の実施を検討するとともに、県内企業に対しても雇用確保の要請を行ってまいります。
6	活力10	「キャリアコンサルタントの育成活用について」 雇用のミスマッチは、業種間ミスマッチが一般的な調査対象となっていますが、意外に多いのが職種間ミスマッチです。このミスマッチを解消し、企業に留まり新たな価値に自ら気づき前向きになれるように支援できるのがキャリアコンサルティングであることから、県としても国と連携して、国家資格であるキャリアコンサルタント等の育成活用を強化していくべきと考えます。	県ではこれまでも、雇用のミスマッチ解消のため、富山労働局と連携し、定期的な合同企業説明会の開催により求職者と県内企業のマッチングを図っているほか、「ヤングジョブとやま」に、常駐でキャリアコンサルタントを配置し、求職者に対するカウンセリングや適職診断を通じた職種間ミスマッチの解消に取り組んでいるところです。また、若手社員の働き甲斐の見つけ方等について啓発する若手社員ビジネス塾の開催や、若手社員の教育担当者向けに指導方法を啓発する職場リーダー塾を開催し、マッチング後の職場定着への支援も行っています。今後も引き続き「ヤングジョブとやま」の活用について広報を行うとともに、キャリアコンサルタントによるカウンセリング等により、雇用のミスマッチの解消に努めてまいります。
7	活力11	「農業に関する専門の高等教育機関の設立について」 富山県は水稲をはじめとした全国有数の農業県ですが、農業に関する専門の高等教育機関がない県でもあります。これまでも様々な取り組みをされてきたとは思いますが、ぜひとも農業に関する専門の高等教育機関の設立を目指していただきたいと思っております。	就農希望者が本県の営農条件に即した基礎的知識や技術を習得できるよう、「とやま農業未来カレッジ」を平成27年に開校したところであり、1年制の通年研修においては、第1期生、第2期生合わせて30名が卒業し、いずれも県内において就農または就農のための研修を継続しているところです。現在、第3期生10名が研修中であり、今後とも、市町村やJA等の関係機関と連携しながら、カレッジの研修内容の充実等を図り、意欲ある担い手の育成・確保にしっかりと取り組んでまいります。
8	活力12	「食品産業関連の人材育成の推進について」 食関連の産業活性化においては、有能な人材が必要ですが、県内においては、食品産業に関連する高等教育機関が十分であるとは言えない状況です。食品産業で活躍できる優秀な人材を育成する教育機関の一層の充実が必要と考えます。	食品事業者約230社を会員とする(一社)富山県食品産業協会が行う、製造技術や衛生管理の向上、売れる商品づくりのための研修会の開催等への支援を通じて、食品産業の人材育成に取り組んでまいります。

タウンミーティング・パブリックコメントでいただいた主な意見と対応状況(活力分野)

【パブリックコメントでいただいた主な意見】

番号	該当政策	意見内容	対応状況
9	活力13	『富富富(ふふふ)』の地域間競争について 新潟県産のコシヒカリは全国ブランドであるが、中でも魚沼産は地域ブランドとして差別化が図られている。「富富富(ふふふ)」についても、富山県産と一括りとはしないで、地域の特性を活かした競争で、品質などの向上を図ることが大切である。生産地を表示することで、広く消費者の関心を引き、選択と評価を受けることにつながる。	「富富富」の販売にあたり、富山県産と一括りにせず生産地を表示することについては、生産者、流通業者、コピーライター等で構成する富山米新品種戦略推進会議において、マーケティング戦略の策定を進めるなかで、どのような販売方法が適当か、検討してまいります。
10	活力13	『富富富(ふふふ)』PRマスコットキャラクターの活用について 県のPRマスコットキャラクター「きときとくん」は、男の子的ネーミングと容姿のため、活躍の場が限定的に感じられるので、「富富富(ふふふ)」のPRを契機に、女の子的なPRキャラクターを作ってはどうか。「富富富(ふふふ)」のソフトなイメージが新しい富山のイメージに結びつくものと思われる。	「富富富」については、生産者、流通業者、コピーライター等で構成する富山米新品種戦略推進会議において、しっかりとしたマーケティング戦略を策定するとともに、県内外で積極的なPRを実施し、認知度を高めたいと考えており、いただいたご意見も参考にしながら、戦略的にPRを行ってまいります。
11	活力15	「富山の魚を食材にした学校給食の提供について」 富山で育ちながら富山の魚を食べたことがない、又は富山の有名な魚を知らないという子どもたちも多い中で、学校給食に富山の魚を食材として使用することはとてもよいことだと思います。これからも色々な富山の魚を食材にした給食を子どもたちに食べさせてあげてほしいと思います。	全国的に魚離れが進んでいると言われるなか、本県では、学校給食への県産魚の提供や魚の料理教室等への支援などを通じて、魚食普及の推進に取り組んでいるところです。 これらの施策を通じて、子供達が魚を食べることの習慣付けや富山の魚に関する理解が深まり、「魚離れ」の防止につながるよう、引き続き効果的な施策の推進に努めてまいります。
12	活力16	「大阪方面等へのアクセス向上について」 北陸新幹線が開業してから大阪方面等への利便性が悪化していることから、ある程度の「サンダーバード」、「しらさぎ」が富山発着となるように再交渉すべき。技術的には問題が少ないと思う。	新幹線開業後の並行在来線区間の在来線特急の運行については、先行事例ではすべて廃止されていることから、県では、開業前からJR西日本に対し特急運行の継続など、関西・中京方面との利便性が確保されるよう繰り返し働きかけてきました。 結果的に、JR西日本では、特急の富山乗入れはないとされましたが、関西・中京方面との利便性が低下しないよう、①富山駅と金沢駅を往復するシャトルタイプ新幹線「つるぎ」18往復の運行、②中二階での乗換えなど金沢駅での新幹線と特急との接続や乗換えの円滑化、③新幹線と特急を乗り継ぐ場合の乗継割引など、相当程度の配慮がなされたところです。 県としては、今後とも関西・中京方面の利便性が確保されるようJR西日本に働きかけるとともに、大阪までの早期全線開業の実現を政府等関係機関に対し、引き続き、強く働きかけてまいります。
13	活力16	「リニア新幹線の開通について」 リニア新幹線による名古屋経由東京方面へのアクセスについて何も言及されていませんが、北陸新幹線の新たな大阪接続よりもリニア新幹線が先に開通するのではないですか。その場合、敦賀～名古屋間のアクセスについて検討する必要があります。	平成34年度末(予定)の北陸新幹線金沢・敦賀間の開業及び平成39年(予定)のリニア中央新幹線品川・名古屋間の開業後の名古屋経由での富山・品川間の所要時間は、約3時間30分(推計:敦賀駅及び名古屋駅で乗換え)であり、現在の北陸新幹線による富山・東京間の2時間8分(乗換えなし)に比べてより多くの時間が必要になります。 このため、利便性を考慮すると、リニア中央新幹線による名古屋経由で東京方面に移動される方は限定的であると考えられることから、総合計画には記載していません。 なお、本県は、中京方面との流動も多く、経済面などの結びつきも強いことから、中京方面のアクセスの維持・向上については、明記しているところです。
14	活力18	「鉄道博物館の開設について」 東富山地区において、「北陸とやま鉄道博物館(仮称)」の開設を提案します。県ではすでに車両の特徴や周遊コースなどを紹介するポータルサイト「鉄軌道王国とやま」を開設し、鉄軌道の魅力を国内外に発信していることから、大ゴールデン回廊の主要な一角を担う富山県の歴史ある鉄道文化をアピールすれば、さらなる交流人口の増加に貢献できると考えます。	県では、本県が有する多種多様な鉄軌道を、観光資源として「鉄軌道王国とやま」と銘打って、交通事業者や市町村と連携して国内外にPRしており、これまで、首都圏での企画展開催やフォトコンテストの実施、多言語に対応したポータルサイト設置などを行っております。 県としては、実際に鉄軌道に乗っていただき、鉄軌道の利用促進や活性化につなげることに主眼を置いているため、県内に鉄道博物館を開設することは考えておりません。
15	活力18 活力21	「鉄道と空港について」 北陸新幹線、あいの風とやま鉄道、富山空港の3つがともに成長、発展するとは思えません。	富山きときと空港につきましては、新幹線開業後、基幹路線である東京便の利用者数が減少し、厳しい状況にあります。 しかしながら、羽田空港に近い品川や神奈川方面への移動や、羽田乗継ぎによる全国各地や世界各地への移動に大変便利であり、その旨をPRすることにより需要の掘り起こしを図り、県民の方々が新幹線と飛行機で選択肢が広がるよう取り組んでまいります。 また、新幹線開業により近くなった長野・上越方面からの需要の取り込みなど、空港活性化にも取り組み、新幹線とともに発展できるよう努めてまいります。 一方、あいの風とやま鉄道については、県民の日常生活を支える公共交通機関であり、また首都圏とつながる北陸新幹線の二次交通としての役割も担っており、今後も引き続き、利用促進や経営安定に努めてまいります。

タウンミーティング・パブリックコメントでいただいた主な意見と対応状況（活力分野）

【パブリックコメントでいただいた主な意見】

番号	該当政策	意見内容	対応状況
16	活力18	「あいの風とやま鉄道について」 活力18の現状と課題にある「増や増車」という記述は、タイプミスではありませんか。また、電車についてはドアの開閉ボタンが固すぎて高齢者、障害者、乳幼児を抱える母親には押し辛く、駅のホームについては歩きにくく滑りやすいです。	「運行本数の増」は、運行回数を増やすこと、「増車」は1本あたりの車両の数を増やすことを意味しています。 電車ドアの開閉ボタン及び駅のホームに対するご意見につきましては、あいの風とやま鉄道に伝えてまいります。
17	活力19	「安全な歩道の整備について」 運転免許証を返納した高齢者が増えている中、高齢者や障害者が歩きやすい歩道、自転車や車椅子が運転しやすい安全な歩道が必要です。高速道路や幹線道路も大切ですが、子どもたちの通学路や生活道路を先に整備することが必要です。	通学路における歩道整備は、これまでも重点的に取り組んでいるところであり、今後も引き続き整備を進めていくこととしております。
18	活力19	「都市高速道路の建設について」 富山空港から富山駅までの都市高速道路の建設はどうでしょうか。国道41号線上を一直線に通行して、北陸自動車道とジャンクション接続、国道359号、旧国道8号、市役所、県庁、富山駅等へ乗り降りするものです。更に国道8号まで延伸してもよいかもしれません。富山空港へ行く人、富山駅へ行く人それぞれに夢があってよいのではと思います。	いただいたご意見も参考にしながら、利便性向上につながる道路整備に取り組んでまいります。
19	活力21	「富山空港の活性化について」 富山空港については、もはや東京便を主力とはせず、LCCと連携し、函館、福岡、仙台など富山からの接続は不便であるが、リージョナル機の定員程度の需要が見込める路線を新幹線の補完的役割として活用すべき。成田、羽田空港の発着枠をとれなかったり、費用がかかり過ぎると感じている国外航空会社に対して、東京との接続の利点をPRして交渉してもよいと思う。また、今後のパイロット不足をにらみ、国内訓練拠点としても売り込めると思う。	新幹線開業後、東京便の利用者数は減少しましたが、富山きときと空港にとって、東京便は品川・神奈川方面への移動や乗継ぎ需要に応える基幹路線であり、かつ富山きときと空港のグランドバンドリングはANAが担っていることから、必要不可欠な状況でありますので、今後も維持・拡充に取り組んでまいります。 加えて、国内路線については、西日本方面などへの新規路線・チャーター便の開拓や、LCC、リージョナルジェットの活用などにより、航空ネットワークの充実を図ってまいります。 また、国際路線についてはご意見の趣旨も踏まえ、維持・拡充に努めてまいります。
20	活力21	「国外との航空ネットワークについて」 海外渡航において不便を感じています。羽田空港での乗換えにあたり、現状では羽田便での乗継が不便な場合があります。増便できればよいのですが、代替手段として、他の国内ハブ空港への便を設定してほしいです。海外直行便も就航地は多いのですが、毎日飛んでいないという問題についても、少なからず解決できると思います。	8月1日より羽田～ジャカルタ便が増便したことや羽田第2ターミナルの拡張及び国際線就航の計画があり、羽田乗継ぎは今後ますます便利になるものと考えております。 本県では、ご意見の趣旨も踏まえ、航空ネットワークの充実のため、西日本方面への新規路線の開拓に努めてまいります。 また、羽田乗継ぎの利便性の向上についても取り組んでまいります。
21	活力23	「富山県総合会館の設置について」 富山の葉、伝統工芸、人物を一同に見ることができる「富山県総合会館(仮称)」の設置を提案します。この施設は、富山県内のすべての観光案内ができる観光総合案内所とするため、県庁の観光課業務の移設も提案します。	近年、旅行の形態は、団体旅行から個人旅行にシフトしてきており、旅行者のニーズも多様化していることから、本県の魅力的な観光資源にさらに磨きをかけ、戦略的な情報発信を行う必要があります。 また、本県の歴史ある伝統文化や工芸品、食といった体験型観光素材を活用した「着地型観光」の商品化を進めているほか、外国人旅行者の満足度を高め「また来たい」と感じてもらえるよう、県内各所の広域観光案内所に英語対応可能な職員を配置するとともに、富山駅構内の「訪日旅行・富山旅行センター」には、日本語、英語、中国語の3ヶ国語によるきめ細かなサービスの提供に取り組んでいるところです。 今後とも、本県ならではの観光資源の掘り起こし・磨き上げをさらに進め、富山らしい魅力を創出するとともに、旅行者の満足度を向上させる受入れ環境の整備に努めてまいります。
22	活力23	「観光客の受入れ体制について」 富山市内に大型観光バスが長時間駐車し、トイレ休憩のほか、観光案内や伝統工芸品の販売等ができる施設を設置してはどうか。	同上
23	活力23	「外国人旅行者の保険加入について」 外国人旅行者の中には、傷病により医療機関で治療を受けても、治療費を未払いのまま出国してしまうケースもあることから、外国人旅行者に傷害保険に加入してもらってはどうか。	観光庁調査によると、訪日外国人旅行者の約3割が海外旅行保険に加入せずに入国しています。このため、①国は、外国人旅行者向け通訳・キャッシュレス診療サービスの付いた旅行保険等のPRを行い、加入への働きかけを行っているほか、②大手損害保険各社は、訪日外国人旅行者の病気やけがなどに対する「インバウンド保険」の販売に力を入れているところです。 県としては、外国人旅行者の保険加入が促進されるよう、こうした国等の取り組みを注視してまいります。

タウンミーティング・パブリックコメントでいただいた主な意見と対応状況(活力分野)

【パブリックコメントでいただいた主な意見】

番号	該当政策	意見内容	対応状況
24	活力23	「県内の見所のアピールについて」 富山の姿を実感できるような見どころポイントを写真にとり、ホームページ、写真集、カレンダー、タオル、Tシャツ等に載せて国内外へPRしてはどうか。	県内の見所をアピールし、誘客につなげるため、富山県の持つ魅力をビジュアルで表現したポスターを制作し、県内外の事業所や飲食店に掲示してもらう取組みを行っているところです。また、観光地や特産品などの写真をホームページに掲載するほか、クリアファイルやポストカード等のノベルティの作製・配布を行っております。
25	活力24	「土地利用制度の厳しい運用の必要性について」 富山県では、都市計画や農業振興計画での土地利用規制をかなり柔軟に運用してきました。この結果、人口・諸機能の都市集中が極めて乏しいものとなっています。これはEUなどで画策され富山市でも検討されているコンパクトシティの対極にある状況とも言えます。また、耕地の宅地化により浸水被害が増加しています。この様な状況を明示し、人口減少等にも鑑み、今後は土地利用の厳格化を図っていくべきことを宣言してください。先般の都市計画の改定でもさらに住宅地域(市街化区域)を拡張していますが、県民が共通認識を持っていれば、地域ごとの強い要望も制御していくことができるのではないのでしょうか。	富山県の都市計画は、今後の少子高齢化・人口減少を見据え、従来の自動車に過度に依存した拡散型の都市構造からの転換を図っております。こうした中、平成28年9月の市街化区域編入では、鉄道駅周辺や既存公共施設周辺で人口集積を図る地区を住居系の地区として編入しており、集約型の都市構造の形成が期待されております。 また、市町村の計画である農地利用計画では、土地所有者からの開発要望があれば、計画変更(農振除外)について、優良農地を守る立場から、市町村において必要性等の検討、調整のうえ、さらに県においても法令等に沿って確認しているところです。 今後も、都市計画においてはまちなか居住など中心市街地への都市機能の集積を図るよう、農地利用計画においては富山県農業振興地域整備基本方針に定めた確保すべき農用地等の面積の目標を確保できるよう、諸施策を推進してまいります。
26	活力24	「公共交通サービスについて」 あいの風とやま鉄道駅からのバスなどへの乗継がとても不便だと思います。また、公共交通サービスに力を入れていきたいとのことですが、なぜ運行本数の減少が続くのでしょうか。矛盾しているように思います。	人口減少による利用者の減少や、それに伴う交通サービスの低下が懸念されるなか、多くの方に地域交通を利用していただくとともに、将来にわたって持続可能な地域交通を目指した取組みを進めていくことが重要と考えています。 このため、乗継時間の短縮や乗継案内等の情報の充実など、公共交通機関相互の接続利便性の向上に努めてまいります。 また、バスについては引き続き生活交通として必要不可欠な民営バス・コミュニティバスの運行等を支援するとともに、地域の実情や利用者ニーズをふまえて、利便性が高く効率的なバス路線への転換を推進してまいります。
27	活力24 安心25	「市町村との連携による公共交通ネットワークの充実等について」 高齢者、障害者、学生など自家用車を利用できない人たちの日常生活を支える公共交通ネットワークの充実や中心市街地だけでなく、市町村を越えた広域交通ネットワークを活用したまちづくりの推進について、市町村と連携協力しながら取り組んでほしい。	自動車を運転できない方々の日常生活を支えるためにも、市町村や交通事業者等と連携・協力しながら、鉄道、軌道、路線バス、コミュニティバスなど公共交通機関の維持活性化と相互の接続利便性の向上による地域交通ネットワークの充実に努めるとともに、広域交通ネットワークを活かした広域的な観点からのまちづくりを推進してまいります。
28	活力26	「外国人向け観光パンフレットについて」 県や市町村が作成した外国人向け英語パンフレットの杜撰さはご存知でしょうか。何とかしてください。	本県を訪れた外国人旅行者が快適に県内を周遊観光していただくため、県では、今年度、外国語版観光パンフレットの見直しを進めるとともに、主要観光資源が県内全域地図に表記された「富山観光MAP(日本語版)」の外国語版(英語、繁体字)の新規作成を予定しております。 今後とも、県民の皆様からのご意見も参考に、県内市町村や観光事業者はもとより、国や近隣自治体とも連携し、分かりやすく魅力的な観光パンフレット作りに取り組んでまいります。
29	活力27	「観光地としての魅力の創出について」 新幹線が開通して富山が特に輝きを増したとは到底思えない現状です。富山は、観光地としては中途半端な魅力なので、富山には何が足りないかを考えるより、例えば、コンサートができるドームを建設するなど、どうやったら県外の人に行ってみたくと思わせることができるかを考えたらよいのではないかと。	本県は、世界水準の観光資源である「立山黒部」、「世界遺産五箇山」、世界で最も美しい湾クラブに加盟した「富山湾」に加え、豊かな海の幸・山の幸に恵まれており、これらの高付加価値化、発掘・磨き上げにより、「選ばれ続ける観光地」として、魅力発信に取り組んでいるところです。 今後とも、富山らしい魅力を創出するとともに、ターゲットの特性に応じ、リピーターや定住をも意識した戦略的なプロモーションに努めてまいります。 なお、多目的に使える大きな全天候型の文化スポーツ施設の整備については、観光振興に役立つことも大いに期待できる一方、国、地方を通じて財政状況が厳しい状況にあることから、大規模公共施設の整備については、慎重に検討してまいります。
30	活力29	「富山湾鮭について」 富山湾鮭のPRを始めてから、県外の方に富山の寿司はそんなにおいしくないと言われることが増えました。富山湾鮭の標榜について、一定の基準を設けてみてはどうでしょうか。	平成23年度より開始した富山湾の海の幸と富山米を使用した富山湾鮭の認知度向上を図っているところです。 「1セット10貫、値段2,000円～3,500円(税別)、ネタの全てが富山湾の新鮮な海の幸、シャリは県産米、富山らしい汁物付」という客観的な基準を設けて県内約60のすし店にて提供しており、ブランド化に取り組んでおります。

タウンミーティング・パブリックコメントでいただいた主な意見と対応状況（活力分野）

【パブリックコメントでいただいた主な意見】

番号	該当政策	意見内容	対応状況
31	活力30	<p>「富山らしいブランディングについて」</p> <p>食や自然など様々な資源を有する反面、PRが下手であるという富山県らしさを踏まえ、控えめながらも強かにブランディングすることが、大多数の企業のPR手法を活用した世俗的なブランディングと一線を画する手法となり、よい意味での差別化になると考えます。また、インバウンドの促進という国際化を反映して、可能な限り「英表記」に努めるべきと考えます。例えば、「きときと」は「KITOKITO」、「やちゃ」は「Ya! Cha!」などと併記し、外国人の関心を惹き、和製英語化するなどを検討していただければ幸いです。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえながら、「富山ならではの」効果的なPRを通じて、富山のブランド力強化に努めてまいります。また、県産品の魅力を外国の方に発信していくため、パンフレットなどの外国語の併記や外国語による情報発信にも表記の仕方を工夫しながら、努めてまいります。</p>
32	活力30	<p>「とやまブランドの強化について」</p> <p>とやまブランドの強化を図るべきなのですが、様々な施策において「とやま」と「富山」の表記が混在しており、分かりにくく、インパクトが削がれている印象を受けます。キャッチコピー等であれば、「とやま」を用いることで統一してはどうでしょうか。</p>	<p>施策の名称は、各ブランドの目的や趣旨、また、名称の長さや漢字・カタカナとの組み合わせのバランスなど、様々な要因により「富山」又は「とやま」が使い分けられており、一概に全てを統一することが最適とは言い難いところがありますが、同様のものについては、いただいたご意見を踏まえ、統一できるものがないか検討しながら進めてまいります。</p>